

第4期「日野人げんき！」プラン

令和6年度進捗状況評価報告



日野市 健康福祉部 健康課

第4期「日野人げんき！」プランについて

設定期間:令和3年度(2021年度)～令和7年度(2025年度)までの5年間

≪目的≫健康寿命延伸のための取組の推進

[取組の方向]ヘルスケア・ウェルネス戦略

上記を掲げ大目標1～3を設定

大目標の下に中目標を設定し、中目標に対する進行管理を行います。

令和6年度評価の方法について

・評価体制:『主管課評価』 → 『策定・評価推進委員会(※)』の2段階で実施。
※令和7年度より、『評価推進委員会』は『策定・評価推進委員会』に名称が変わりました。

『主管課評価』 取組を担当している課が評価

『策定・評価推進委員会』

→ 「日野人げんき！」プラン 評価実施要綱に基づいた構成メンバー

- (1) 公募による市民代表3名
- (2) 医師会推薦1名、歯科医会推薦1名、薬剤師会推薦1名
- (3) 日野市職員3名…健康福祉部参事、子ども部長、教育部長

・評価の基準:下記3段階で設定

- : 現状値より増えた
- △ : 現状維持
- × : 現状値より減った

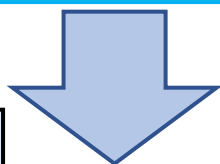
令和6年度評価内容

主管課評価

・主管課が本プランで設定した数値目標(健康指標)を含め中目標の達成状況についての評価を行いました。

・主管課での評価結果は10の中目標に対し「現状値より増えた:○」…5、「現状維持:△」…5、「現状値より減った:×」…0

※各事業で周知啓発や受診勧奨に取り組んでいるが、その方法についてより効果的な手法の検討が必要となる。



策定・評価推進委員会

・対面での「策定・評価推進委員会」を開催。各委員からの意見をまとめ評価結果としました。

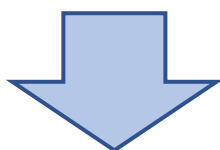
・上記「主管課評価」をふまえ、中目標の達成状況についての評価を行いました。

・「策定・評価推進委員会」の審議結果報告を受け、令和6年度の評価結果として市民へ公表していきます。

・策定・評価推進委員会での評価結果は10の中目標に対し、「現状値より増えた:○」…6、「現状維持:△」…4、「現状値より減った:×」…0

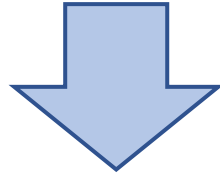
・生活習慣病予防に関する健康教育の実施回数や、がん検診の受診勧奨の効果等、評価いただけた部分もあるが、取り組みが結果に繋がっていない状況についてのご指摘もありました。

・「策定・評価推進委員会」の各中目標の結果は、『第4期「日野人げんき！」プラン令和6年度評価概要(策定・評価推進委員会)』を参照してください。



次ページへ

つづき



策定・評価推進委員会評価結果を受けて

「策定・評価推進委員会」の評価結果をもって各事業にフィードバックしていきます。
本評価を含め課題を検討し、今後の取組や改善につなげていきます。

今年度は、取り組みと成果の関係についてのご指摘や、現状を理解した上で対応していく必要があるというご意見をいただきました。

具体的には、「新しい取り組みを行っているようだが、成果に結びついていない」・「受診率の減少の原因は何か。それらのことを理解して先へ進んでいただきたい。」等のご意見がありました。

今後については、目標達成に適した取り組みになっているのか、なぜ取り組みが結果に現れていないのか等、より具体的に検討し、事業を進めてまいります。

第4期「日野人げんき！」プラン令和6年度評価概要(策定・評価推進委員会)

評価の基準:3段階で設定 ○:現状値より増えた △:現状維持 ×:現状値より減った

大目標	中目標		中目標の 令和6年度評価	令和6年度評価コメント
1、健康づくりを推進します	1	日頃から感染症の発生及び蔓延を予防していく体制を推進します	○	●古い情報が残らないよう適宜情報更新を行ったこと、更新回数が増えたことは評価できる。 ●一方で、情報の更新を適時に行うことは、それ自体が目的ではないと思う。情報更新を行う目的は、市民の感染症に対する予防行動が増加することではないか。 ●情報過多を防ぎ、整理された情報を流す必要がある。また、必要な情報を簡単に見ることができるなど情報発信の仕方を工夫する必要がある。
	2	生活習慣病予防を推進します	△	●健康教育の実施回数は増加しており、努力の結果と評価できる。 ●特定健診受診率が昨年から減少のようだが、未受診者に対して受診勧奨はがきの送付を行ったことは評価できる。 ●受診率は横ばいであるため、受診の動機づけを違う方向から取り組む事を考えることが必要。 ●今後は各分野と連携していくことが重要と考える。例えば、健康教育の場としてスポーツイベントなどとの連携も検討することが必要である。
	3	高齢社会を地域で支えるための「健康づくり」を推進します	△	●健康体操サポーター候補生が増えたことを評価する。健康体操サポーターの人数を増やすことは良いことなのだと思うが、目指す体制にするのに何人必要なのかが判らないと、評価は難しい。 ●さわやか健康体操卒業生が自主グループを作り、運動を継続できていることを評価する。 ●サポーター数が維持できているものの、まだまだ認知されていないのではないかと思いますので、今後も認知度アップが必要である。 ●健康日本 21 にもあるように、身近な場所で自然に健康になれる環境づくりの仕組みについても検討が必要である。 体操は継続が必要で、自主的に継続するには、参加する人が自分を評価でき、年齢平均の身体能力などとの比較で満足を感じられるような仕組みが必要ではないか。
2、がん対策を推進します	1	がんの予防を推進します	○	●地域の子育て広場や小中学校に出向き、がん予防教育を実施したことは評価できる。 ●禁煙教育実施回数が増えたことは大いに評価できる。 ●地域に出向いての活動は効果があると感じる。特に小中学校での実施は効果が大いと思うので、継続して活動していくことが望ましい。 ●市として禁煙エリアの設定等、前向きな動きもあるようだが、より効果的な喫煙者の行動変容に繋がる行動が必要ではないか。 ●引き続き禁煙教育の実施が必要である。
	2	がんの早期発見を推進します	△	●若年層にアプローチして結果が出たのは素晴らしい。子宮頸がん検診の 28 歳に受診勧奨を行い、受診者が大幅に増えたことは評価できる。 ●各種がん検診の受診率が上がらないのは、何が障壁なのかを見直す必要がある。 ●大腸がん検診で陽性となった人が内視鏡検査を受けない場合の「受けない判断」は何によるものなのか。それらのことを理解して先へ進んでいただきたいと思う。受診率の低下の検証を行い、違う角度から受診勧奨を行うことが必要である。 ●受診率向上のため、効果的な方法をとっている他市町村の状況の調査を続け、新たな対策を検討する必要がある。
	3	がんとの共生を図ります	○	●引き続き事業を実施できたことは評価できる。 ●今行っていることを維持継続する事が大変な仕事なのかもしれない。引き続き、がんとの共生が図れるような環境を整えていただきたい。がん支援の活動を引き続きお願いしたい。
3、歯とお口の健康づくりを推進します	1	【妊娠期】 妊娠期からかかりつけ歯科医を持ち、母子共に健康なお口を育てられるよう推進します	○	●かかりつけ医を決めていない人が減少したことは大変良いと評価できる。 ●何故、半数以上の対象者が「かかりつけ歯科医」を決めていないのか、その理由を当事者から聴き取り、対処を考える必要があるのではないか。 かかりつけ歯科医を決めることが何故良いのか周知が必要である。 ●歯の健康状態を定期的に確認する習慣づけを子どもの頃から定着する必要があるのではないか。
	2	【乳幼児期】 むし歯のない健康なお口を持つ子どもの育成に取り組みます	○	●むし歯のない子どもが増加していることは評価できる。むし歯のある子どもにも支援を行っていて努力を感じる。 令和 7 年度から、乳幼児歯科相談の対象年齢を 0 歳からに拡大するため準備を進めたことは評価できる。 ●100%に近い項目もあり、ここから先が難問なのではないかと思う。現状の活動を引き続き実施すると共に、より改善を進めるための更なる保護者への啓蒙が必要。 ●乳幼児期の口腔内は保護者の責任と自覚を促すことが大切だと思うが、評価として上記の件は理解していても実行できない場合、「どうしたら良いかを伝えられる方法」を考えていくことが課題である。「何がよくて」、「何がどうしていけないのか」、の親への簡単で分かりやすい教育の工夫が必要である。
	3	【学齢期・成人期】 子どもの歯肉炎予防・成人の歯周病予防に努めます	△	●子どもの口腔内についてはおおむね評価できる。 ●養護教諭と連携し、保健だよりやひのっ子教育で周知啓発できたことは評価できる。 学校での指導等の実施内容は充実していると思う。 ●「お口の健康診査」の対象年齢のうち、特に若い世代はその必要性を感じ取ることができない。10 年後成人になっていく子ども達の歯科教育の重要性の検討が必要。 若い世代に響くような具体策をいろいろとやってみてほしい。 ●20 歳・30 歳が対象になるとの事、社会人は学校のような集団的に伝える場がないため、中高生より更に難しい面を有している。文字離れも進んでおり、SNS の活用・動画化やイラスト化等も、新たな伝達手段として考えていく必要があると思う。
	4	【高齢期】 口腔機能の維持向上を推進します	○	●後期高齢者歯科健診受診率の低下は残念な結果になったが情報発信は評価できる。 チラシの配布等、健康課として努力していく姿勢は素晴らしい。 ●行動力、体力、自由時間等が豊かな世代だと思うので、高齢層の横のつながり、所属グループなどに協力を求め、周知及び参加を進めるのは良いと思われる。さわやか体操など、中高年の市民が集まる場所を活用する事も、高齢者に意識付けする有効な手段だと思う。 ●むし歯・入れ歯など、不具合で歯医者にかかることが多い年代であり、治療に通院する機会を如何に活用するかがポイントではないか。歯科医との連携が大切だと思う。

< 評価詳細 >

大目標
1

健康づくりを推進します

評価の基準 ○:現状値より増えた △:現状維持 ×:現状値より減った

								主管課評価					策定・評価推進委員会	
番号	中目標	担当	指標	現状値	令和5年度 実績値	最終 目標値	令和6年度実施計画 【最終目標値達成のために 実施する事業(業務内容)】	令和6年度 実績値	実施内容 【目標達成のために実施した事業】	達成状況と課題	評価	評価と課題	評価	評価コメント
1	日頃から感染症の発生及び蔓延を予防していく体制を推進します	健康課	感染症情報のホームページ更新回数	0回	58件 (予防接種に関すること22件、新型コロナウイルスに関する情報発信20件、流行している疾患情報16件)	増やす	・国や都からの情報発信に併せ、感染症に関する最新情報をタイムリーに情報更新を行う。 ・情報によってはホームページの更新に合わせLINEの配信を行い、市民への知識の普及や感染予防行動がとれるよう働きかける。	79件 (予防接種に関すること68件(内コロナ25件)、感染症に関すること11件)	・国や都からの情報発信に併せて、感染症に関する最新情報をタイムリーに更新を行い、注意喚起を行った。 ・予防接種においては、適宜情報の更新を図り、適切な知識のもと予防接種が検討できるよう周知を行った。	古い情報が残らないよう、適宜情報更新を行い、また感染症の流行期に併せて注意喚起を行うことができた。今後も感染症の流行に併せ、適宜更新・周知を図り、予防接種を含めた感染予防行動がとれるよう働きかけを行う必要がある。	○	【評価】 感染症の最新情報をタイムリーに情報更新出来たことは評価できると考える。また、予防接種においては令和5年度よりも更新回数が増え、適切な知識のもと予防接種ができるよう適宜情報の更新を行ったことは評価できると考える。 【課題】 ホームページ更新回数を増やすとともに、必要な情報を正しく更新し、今後も感染症・予防接種の最新の情報を発信していくことに努める。	○	●コロナ関連以外の情報更新は「38件⇒54件」と約1.5倍に増えており、活発な取り組みが出来たと思う。 情報の更新を適時に行うことは、それ自体が目的ではないと思う。それを行う目的は、市民の感染症に対する予防行動が増加するとか健康課から発せられる情報の信頼度が高まる等。それを意識したKPIの設定とそれを実現するための行動レベルの指標とを検討・設定して頂くと思う。 ●古い情報が残らないよう適宜情報更新を行ったことを評価する。今後も正しく更新し、最新情報の発信を続けてほしい。 ●感染症の最新情報がいつでも見られるのが便利。引き続きお願いしたい。 ●情報過多を防ぎ、整理された情報を流す必要がある。予防接種についてもラインで通知はどうか。基本的な手洗い、医療機関におけるマスクなどの装着も引き続き行うことが必要。 ●最新情報の更新において回数が増えたことは評価できる。新しい情報が入り次第逐一発信することに努める。 ●感染情報は外部リンクを辿って行けば詳しくわかるが、最新の日野市の状況が簡単にわかるといいと思う。 ●感染症の最新情報をタイムリーに情報更新出来たことは評価できる。正しい情報を更新・発信していく必要がある。また、必要な情報を簡単に見ることができるなど情報発信の仕方を工夫する必要がある。 ●感染症についての情報は、市民も関心の強い分野であるので、今後も国や東京都の情報はタイムリーに発信をお願いしたい。
2	生活習慣病予防を推進します	健康課	健康教育事業実施回数	19回	19回	増やす	・日野人げんきゼミナール(地域での健康教育)を実施していく。 ・健診(検診)会場での健康教育を実施していく。	24回	・日野人げんきゼミナールを実施。 ・乳がん検診、骨粗しょう症検査において健康教育を実施した。	・がん検診の実施体制変更に伴い、実施回数が増回となった。 ・今後も周知しながら有効的な健康教育を実施していく。	△	【評価】 健康教育事業実施回数が増えたことは大いに評価できる。また、LINEでの受診勧奨を行ったことは評価できると考える。 【課題】 より多くの市民に生活習慣病予防について周知するため、新たな健康教育の場を見つける必要がある。 若い世代にLINEでの受診勧奨は効果的だと思うが、受診率は横ばいであるため、他の受診勧奨方法も検討し生活習慣病予防の推進に向けて取り組む必要がある。	△	●健康教育の実施回数は増加しており、努力の結果と評価する。一方で、到底健康診断の受診率は増加していない。プラスの結果の行動がありながら受診率の向上という結果が得られていないということは、手段の何か(対象者・タイミング・教育内容等)に不具合があるのかもしれない。 健康教育の目的が別にあるのであれば、それを明確にし、そこに結びついているかを確認する事が必要。 ●受診率が横ばいというのは今までもあったことだが、市内での受診以外で何らかの方法で受診をしている場合もあるのではないかと(それを日野市に未報告)。もしその可能性があるのなら、その点を明らかにする方法はないかが課題になると思う。 ●特定健診受診率が減少のようだが、実施内容は評価できる。健康教育事業は順調のよう。 ●40代に絞って受診率向上に取り組んだらどうか。 ●健康教育事業の回数増加、未受診者に対して受診勧奨はがきの送付も十分評価に値する。 横ばいの受診率に対し、受診の動機づけを違う方向から取り組む事を考える。 ●健康教育実施回数が増えたことは評価できる。 ●若い世代にLINEでの受診勧奨を行ったことは評価できる。一方で、受診率は横ばいであるため、他の受診勧奨方法も検討する必要がある。 ●健康教育の場としてスポーツイベントなどとの連携も検討の余地があるのではないかと。 ●この分野は、実施回数や受診率だけで評価していくのは難しいと思う。健康課のみでやるのではなく、今後は各分野と連携していくことが重要と考える。
			特定健診受診率	46.3%	43.7%	増やす	・電話による受診勧奨対象者を増やし、受診勧奨を行う。また、若い世代(40～64歳)の受診率向上のために、LINEによる受診勧奨も検討し実施する。	42.4%	・特定健診未受診者8,313人に対し、受診勧奨ハガキを送付した。	LINEでの受診勧奨といったアプローチを実践することができた。今後は、健診案内等も見直しながら、健診の必要性の周知方法等を引き続き工夫していく。				

大目標
1

健康づくりを推進します

評価の基準

○:現状値より増えた △:現状維持 ×:現状値より減った

								主管課評価				策定・評価推進委員会		
番号	中目標	担当	指標	現状値	令和5年度実績値	最終目標値	令和6年度実施計画 【最終目標値達成のために実施する事業(業務内容)】	令和6年度実績値	実施内容 【目標達成のために実施した事業】	達成状況と課題	評価	評価と課題	評価	評価コメント
3	高齢社会を地域で支えるための「健康づくり」を推進します	健康課	健康体操サポーター新規登録数	3名	2名	増やす	・新規サポーターの募集を広報で実施するだけではなく、楽・楽トレーニング体操の参加者に対しても、サポーター募集の声掛けを行う。 ・募集は毎年実施し、申込機会を増やす。	4名	サポーターの声等も反映し、R6年度途中から養成講座の内容や試験方法の見直しを行った。サポーター養成講座候補生の募集の際には、広報での記事掲載の方法を改善し、写真をつけ具体的に活動がイメージしやすいよう周知を図った。フレイル予防リーダーの方々へも周知を図り、社会福祉協議会の担当者へも概要説明した。	令和6年度に5名の候補生登録があり、4名の方が認定試験に合格し、R7年度からトレーナーとして活動予定。R7年度へ向けたサポーター養成講座候補生募集時には、広報を通し、サポーターの活動を初めて知った方も多く、効果的に周知を図ることができた。R7年度は6名の候補生が参加予定であり、R7年度以降のサポーター新規登録数増加も見込まれる。今後、サポーターとなった方が活動を継続しやすいよう、養成講座の内容等引き続き検討を続けていく必要がある。	△	【評価】 令和7年度活躍できる新規サポーターを一定数維持できていること、またサポーター養成講座の周知方法を見直したことで、R7年度新規登録へ向けた候補生が増えたことは、評価できると考える。 一部のさわやか健康体操卒業生が自主グループを作り、運動を継続できたのは評価できると考える。	△	●健康体操サポーターの人数を増やすことは良いことなのだと思うが、目指す体制にするのに何人必要なのかが判らないと、評価は難しい。 運動の継続5年以上の人の比率を指標にしているが、新たに取り組み始めた人は5年後にならないと成果としての数値に現われない。何か物の指標が必要。 自主的に継続するには、参加する人が自分を評価でき年齢平均の身体能力などとの比較で満足を感じられるような仕組みが必要。また、褒められる喜びが必要と思う。 ●サポーター候補生が増えたことを評価する。 さわやか健康体操卒業生が自主グループを作り、運動を継続できていることを評価する。さわやか健康体操卒業生が不安なく孤立グループにならないよう、ある種の見守りが必要だと思う。 ●運動を継続することは大切だと思う。場所が増え、気軽に参加できればと願う。 ●体操は継続が必要なので、この観点から整理をはかりたい。日野市におけるフレイル予防体操の基本を整理したほうがよい。 ●新規サポーターを一定数維持できたことは評価できる。サポーターが無理なく活動できるようにし、市民のフレイル予防に繋げていく。 ●サポーター数が維持できているものの、まだまだ認知されていないのではないかと思う。 ●さわやか健康体操卒業生が自主グループを作り、運動を継続できたのは評価できる。さわやか健康体操の卒業生が継続して運動できるよう情報提供等を行うことが必要である。 ●数値のみで見ると△になるが、健康課として努力していることは評価できる。健康日本21にもあるように、身近な場所で自然に健康になれる環境づくりの仕組みについても検討してほしい。
			運動継続期間が5年以上の方	64.4%	52.5%	増やす	・市民のフレイル予防のため、市民自身が運動の必要性を知ることができる機会を提供する。 ・市民が健康づくりを自発的に行えるような仕組みを企画する。	48.3%	さわやか健康体操では3年卒業制を導入。卒業生にむけて健康づくりを自主的に行えるように運動ガイドを作成し市内にある運動施設等の紹介をしたり、自主グループ化への情報提供等を行った。	一部のさわやか健康体操卒業生が運動継続のため自主グループを作り、運動継続ができた。引き続き運動ができる施設・機会の情報提供を行い、自発的に運動、健康づくりができるような仕組みづくりを行っていく。		【課題】 養成講座の内容等、サポーターの負担なく実施できるよう引き続き検討が必要である。 また、さわやか健康体操の卒業生が継続して運動できるよう必要な情報提供を行うことや、運動の必要性を周知し新規にさわやか健康体操に参加してもらえよう、より一層効果的なフレイル予防の充実を図ることが必要である。		

大目標 2		がん対策を推進します						評価の基準 ○:現状値より増えた △:現状維持 ×:現状値より減った						
番号	中目標	担当	指標	現状値	令和5年度 実績値	最終 目標値	令和6年度実施計画 【最終目標値達成のために 実施する事業(業務内容)】	主管課評価				策定・評価推進委員会		
								令和6年度 実績値	実施内容 【目標達成のために実施した事業】	達成状況と課題	評価	評価と課題	評価	評価コメント
1	がんの予防を 推進します	健康課	子育て 世代へ のがん 予防教 育実施 回数	2回	8 回	増やす	・地域の子育て広場や小 中学校でのがん予防教育 を実施する。 ・広報だけでなく、市ホー ムページ等でがんに関す る正しい知識を発信す る。	7 回	・地域の子育て広場や小中学校(乳 がん検診)に出向き、がん予防教育 を実施した。 ・広報以外にも、市ホームページや LINE にて、がんに関する正しい知 識を発信した。	・今年度は各会場 1 回の実施とした ため、実施回数は減少となった。 (R5 は 2 回実施した会場あり) ・引き続き、地域へ出向き子育て世 代へのがん教育を行う。 ・引き続き SNS を活用し、年代に 合わせた情報発信を行う。	○	【評価】 令和 6 年度も地域の子育て広 場や小中学校に出向き、がん予 防教育を実施したことは評価で きる。また、禁煙教育実施回数 が増えたことは大いに評価でき る。 【課題】 引き続き、がんの予防を推進す るために、がん予防教育・禁煙 教育を実施するとともに、各事 業効果的な手法を検討していく 必要がある。	○	●がん予防教育の実施回数が増えなかったのが、各会場 1 回の実施にした ためであれば、「増やす」を目標にしたのに適切でない施策であったと思う。 禁煙教育の実施は増えたが、それによって、喫煙者の行動はどのように変わ ったのか？ がん予防教育は、実施回数が指標になっているが、目的はがん検診の受診率 の向上なのか？本来の目標を評価基準にしないと意味ある評価にならない。 市として禁煙エリアの設定等、前向きな動きもあるようだが、より効果的な喫 煙者の行動変容に繋がる行動が必要ではないか。 ●P26 図 9(健康に関する情報は何かから得ているか)はとても興味深かつ た。正しい情報を得るためにはどうしたら良いか、市民に正しい理解をしてほ しい。広報ひのは、正しく情報発信を願いたい。 ●地域に出向いての活動は効果があると感じる。特に小中学校での実施は 効果が大きいと思うので、引き続き期待する。 ●基本的に子宮頸がん予防接種をしっかりと行う。 ●今年度もがん予防教育を実施できたことは評価できる。引き続き禁煙教育 の実施が必要。 ●順調に進んでいると思う。 ●地域の子育て広場や小中学校に出向き、がん予防教育を実施したことは評 価できる。禁煙教育実施回数が増えたことは大いに評価できる。 ●小中学校へのがん教育の取組は大変有効であると考えられるので、継続し て活動していくことが望ましい。 ●小中学生のがん予防教育は、重要な取り組みなので、引き続きお願いした い。
			禁煙教 育実施 回数	4回	12 回	増やす	・がん検診、特定健診、商 工会での健康教育、肺が ん検診実施時等、禁煙に 関心をもってもらうよう きっかけ作りを行う。 ・広報や市ホームペー ジ等で禁煙に関する情報 を発信する。 ・保健事業と介護予防の 一体的実施事業にて、禁 煙希望者には禁煙指導を 行っていく。	18 回	・がん検診、特定健診、商工会での 健康教育時に加え、がん予防教育に おいても禁煙についての情報発信、 健康教育を行った。 ・広報、市ホームページで禁煙に関 する周知啓発を行った。	・がん検診の実施体制変更に伴い、 実施回数が増回となった。 ・引き続き、各検診等で禁煙につい ての情報発信、健康教育を行う。 ・禁煙について考えるきっかけ作り を検討していく。				
2	がんの早期発見 を推進します	健康課	乳がん 検診受 診率	20.2%	22.1%	増やす	・受診率向上に向けて、 15 世代に受診勧奨を送 付する。 ・受診率向上に向けて、引 き続き広報ひのや LINE 等で情報発信を行う。 ・40 歳、50 歳、60 歳に 送付している受診勧奨通 知のレイアウトを見直す。	16.9%	・15 世代に受診勧奨を送付した。 ・広報は 2 回掲載、LINE は 3 回掲 載し、受診率向上につながるよう実 施した。 ・40 歳、50 歳、60 歳に送付して いる受診勧奨通知のレイアウトを見 直した。	・前年度に比べて、受診率は減少と なった。 ・地域の場のみならず、今後もあら ゆる方法で周知ができるよう工夫 していきたい。	△	【評価】 28 歳に対して、子宮頸がん検 診の受診勧奨を行い、受診者が 大幅に増えたことは評価できると 考える。 大腸がん検診精密検査につい て、医師会等関係者と課題を共 有できたことは評価できると考 える。 【課題】 令和 5 年度実績に比べて、い ずれも受診率が減少している。 特に乳がん検診が減少しており、 受診率向上のため、今後も 他自治体を参考にしながらより 効果的な受診勧奨を行うことが 必要である。	△	●乳がん検診・子宮頸がん検診・大腸がん検診共に受診率が微減である。何 らかの疾患があって、改めて検診を受けなくて済む人もある。日野市として、 どの位の受診率が目標なのか？受診率が上がらないのは、何が障壁なのか を見直す必要がある。(申込手続きの煩雑等) また、市内に検診を受けられるキャバはどの位あるのだろうか？今行ってい る勧奨の繰り返しでは、成果につながらないと思う。 ●受診率の減少の原因は何か。大腸がん検診で陽性となった人が内視鏡検 査を受けない場合の「受けない判断」は何によるものなのか。それらのことを 理解して先へ進んでいただきたいと思う。 ●受診率がどれも減少しているようだが、実施内容は評価できる。課題点に 期待したい。 ●更年期以降の女性では特に乳がんに対して自己で触診していくことが必 要。いろいろ工夫したい。 ●子宮頸がんの受診者の増加は評価に値する。受診率の低下の検証を行い、 違う角度から受診勧奨を行う。 ●若年層にアプローチして結果が出たのは素晴らしい。ポイントを絞れば、結 果が伴う事を実証できた。 ●子宮頸がん検診の 28 歳に受診勧奨を行い、受診者が大幅に増えたこと は評価できる。一方で、特に乳がん検診の受診率が減少しており、受診率向 上のため、今後も他自治体を参考にしながらより効果的な受診勧奨を行うこ とが必要である。 ●受診率向上のため他団体の取組など参考にし、新たな対策を検討する必要 がある。 ●がんの早期発見には、やはり検診が効果的であると考えてる。受診率向上の 方法については、効果的な方法をとっている他市町村の状況の調査を続けて ほしい。
			子宮頸が ん検診受 診率	13.5%	18.3%	増やす	・受診率向上に向けて、 15 世代に受診勧奨を送 付する。 ・受診率向上に向けて、引 き続き広報ひのや LINE 等で情報発信を行う。 ・地域の場での健康教 育で、子宮頸がんについ ての周知啓発を行う。 ・HPV ワクチン勧奨の際 に、子宮頸がん検診につ いての勧奨も同封する。 ・40 歳、50 歳、60 歳に 送付している受診勧奨通 知のレイアウトを見直す。	16.8%	・受診率向上に向けて、15 世代に 受診勧奨を送付した。 ・若年層の受診率向上を目的とし、 28 歳に対して受診勧奨を行った。 ・40 歳、50 歳、60 歳に送付して いる受診勧奨通知のレイアウトを見 直した。 ・広報は 2 回掲載、市 LINE は 3 回掲載し、受診率向上につながるよ う実施した。 ・地域の場に 2 回出向き、子宮頸が んについて周知啓発を行った。	・前年度に比べて、受診率は減少と なった。 ・前年度に比べて、28 歳の受診者 数が大幅に増加した。 (R5:30 人→R6:170 人) ・地域の場のみならず、今後もあら ゆる方法で周知ができるよう工夫 していきたい。				
			大腸がん検 診精密検査 受診率	63%	54.1%	増やす	・精密検査受診者に対し、 受診の必要性を周知して いく。 ・がん検診受診環境整備 検討委員会の実施。 ・精密検査受診率の傾向 を把握し、医師会等関係 機関と課題を共有する。	53.4%	・精密検査受診者に対し、受診の必 要性を周知した。 ・がん検診受診環境整備検討委員会 を実施した。 ・精密検査受診率の傾向を把握し、 医師会等関係機関と課題を共有し た。	・前年度に比べて、精密検査受診率 は減少となった。 ・大腸がん検診で陽性が出たら、大 腸内視鏡検査を受けるということ を、受診者および医療機関へ周知し ていく必要がある。				

がん対策を推進します

評価の基準 ○:現状値より増えた △:現状維持 ×:現状値より減った

								主管課評価					策定・評価推進委員会	
番号	中目標	担当	指標	現状値	令和5年度実績値	最終目標値	令和6年度実施計画 【最終目標値達成のために実施する事業(業務内容)】	令和6年度実績値	実施内容 【目標達成のために実施した事業】	達成状況と課題	評価	評価と課題	評価	評価コメント
3	がんとの共生を図ります	健康課	がんに関する相談・支援団体との連携	1団体	①1 団体 ②5 回 ③82 件	増やす	①市立病院　がんカフェでの保健師の派遣 ②まちの在宅医療相談会の実施 ③がん患者の支援の実施(アピアランスケア支援補助金事業)	①1 団体 ②3 回 ③88 件	①市立病院　がんカフェへの保健師の派遣 ②まちの在宅医療相談会の実施 ③がん患者の支援について(アピアランスケア支援補助金事業の実施)	引き続き、他部門と連携をはかり、がんの支援のひろがりをつくっていくことで、がん患者、家族以外もがんに対しての理解者を増やし、がんとの共生を図れるような環境を作っていく。	○	【評価】 引き続き、事業を実施できたことは評価できると考える。 【課題】 がんとの共生が図れるような環境を整えていく必要がある。	○	●目立った前進は無いようである。今行っていることを維持継続する事が大変な仕事なのかもしれない。 目標として「増やす」とあるが、指標が「団体」「回数」「実施人員」の3つになっており、それぞれに増やすために何をするか異なるのではないか。全部をまとめて「増やす」という目標設定は少々乱暴な気がする。 ●がんに関する相談・支援団体を増やす。 ●がん支援の活動を引き続きお願いしたい。 ●引き続き事業を実施できたことは評価できる。継続と環境の整備が課題である。 ●引き続き環境基盤の整備を続けてほしい。 ●引き続き、がんとの共生が図れるような環境を整えていただきたい。 ●引き続き事業を継続してほしい。

大目標
3

歯とお口の健康づくりを推進します

評価の基準

○:現状値より増えた △:現状維持 ×:現状値より減った

								主管課評価					策定・評価推進委員会	
番号	中目標	担当	指標	現状値	令和5年度実績値	最終目標値	令和6年度実施計画【最終目標値達成のために実施する事業(業務内容)】	令和6年度実績値	実施内容【目標達成のために実施した事業】	達成状況と課題	評価	評価と課題	評価	評価コメント
1	【妊娠期】 妊娠期からかかりつけ歯科医を持ち、母子共に健康なお口を育てられるよう推進します	健康課	かかりつけ歯科医を決めていない人	62%	59.7%	減らす	・ママバパクラスや母子手帳交付窓口での周知啓発を継続実施する。 ・より多くの妊婦に周知啓発するため、市ホームページだけではなくぼけなび等を活用した周知啓発を行う。	56.9%	・ママバパクラスや母子手帳交付窓口での周知啓発を継続実施した。 ・引き続き既存事業や市ホームページでの周知啓発を行い、妊婦への情報発信方法等を検討した。	・妊婦歯科健康診査の受診結果で「かかりつけ歯科医を決めていない人」は減少した。 ・引き続き既存事業や市ホームページでの周知啓発を行い、妊婦への情報発信方法等を検討する。	○	【評価】 かかりつけ歯科医を決めていない人の実績が減少したことは評価できると考える。 【課題】 さらに数値が減少するよう、妊婦への効果的な情報発信方法を検討し、母子共に健康なお口を育てられるよう引き続き周知していくことが必要である。	○	●前年より若干減少しているが、積極的評価に値する物か判断に苦しむ。何故、半数以上の対象者が「かかりつけ歯科医」を決めていないのか、その理由を当事者から聴き取り、対処を考える必要があるのではないか。 ●かかりつけ医を決めていない人が減少したことは大変良いと評価できる。引き続き周知して行うことが課題である。 ●日頃の成果がでているように感じた。 ●かかりつけを決めていない妊婦の減少は評価できる。かかりつけ歯科医を決めることが何故良いのか周知が必要である。今後パートナー健診の必要性を考え、実施を検討する。 ●工夫して引き続き周知をお願いしたい。 ●かかりつけ歯科医を決めていない人の割合が減少したことは評価できる。さらに向上するよう、妊婦への効果的な情報発信方法を検討する必要がある。 ●歯の健康状態を定期的に確認する習慣づけを子どもの頃から定着する必要があるのではないか。 ●歯科医会や健康課の努力で、歯への関心は高まっていると感じている。今後も引き続きお願いしたい。
2	【乳幼児期】 むし歯のない健康なお口を持つ子どもの育成に取り組めます	健康課	1歳6か月児健康診査で、保護者が毎日仕上げ磨きをしている子ども	96.5%	95.9%	増やす	・離乳食教室や3・4か月児健診にて、仕上げ磨きの重要性や方法について周知するためのリーフレットの配布を行う。 ・健診時、仕上げ磨きを行っていない保護者に対しては引き続き歯科専門職による支援を行う。	95.1%	・令和7年度より乳幼児歯科相談の対象年齢拡大のための調整を行った。0歳からが対象となり、1歳6か月児健診よりも前からアプローチができるようになる。 ・離乳食教室や3・4か月児健診にて、仕上げ磨きの重要性や方法について周知するためのリーフレットの配布を行った。 ・子育て広場で健康教育を実施し、仕上げ磨きの方法と重要性を周知した。	・保護者が仕上げ磨きをしている子どもは微減した。 ・健診事業だけではなく、子どもの集まる事業での周知啓発等を検討する。 ・引き続き健診時、仕上げ磨きを行っていない保護者に対しては歯科専門職による支援を行う。	△	【評価】 令和7年度から、乳幼児歯科相談の対象年齢を0歳からに拡大するため、調整を行ったことは評価できる。また、3歳児健康診査で、甘い飲み物をほぼ毎日飲んでいる子どもが減少したことも評価できる。 【課題】 健診は保護者への動機づけとして最も重要な機会であるため、引き続き保護者へ周知や支援を行うことが必要である。健診や事業以外でも乳幼児期の歯科の重要性を周知できるよう、検討する必要がある。	○	●4項目でそれぞれに横ばい乃至改善されており、前向きに評価できると思う。100%に近い項目もあり、ここから先が難問なのではないかと思う。現状の活動を引き続き実施すると共に、より改善を進めるための更なる保護者への啓蒙が必要。特に、乳幼児に食事を通してむし歯菌を持ち込まないよう、保護者と共に祖父母への食事行動の指導が必要ではないかと思う。 ●乳幼児期の口腔内は保護者の責任と自覚を促すことが大切だと思うが、評価として上記の件は理解していても実行できない場合、「どうしたら良いかを伝えられる方法」を考えていくことが課題である。 ●むし歯のない子どもが増加していることは評価大。むし歯のある子どもにも支援を行っていて努力を感じる。 ●健診に対する周知支援が重要なのでさらに工夫をお願いしたい。 ●概ね目的は達成できていると思われる。「何がよくて」、「何がどうしていけないのか」、の親への簡単で分かりやすい教育の工夫が必要である。 ●多様なライフスタイルに理解をもって周知啓発を続けてほしい。 ●令和7年度から、乳幼児歯科相談の対象年齢を0歳からに拡大するため準備を進めたことは評価できる。健診や事業以外でも乳幼児期の歯科の重要性を周知できるよう検討する必要がある。 ●日野市の子どものむし歯の罹患率は、他に比べて低いので数値的に増やすという取り組みは難しいように思う。
			3歳児健康診査で、むし歯のない子ども	92.1%	95%	増やす	むし歯のない子どもを増やすため、引き続きかかりつけ歯科医を持つことの重要性を周知する。また、健診でむし歯があり、歯科医院に通院していない場合は、歯科専門職や必要に応じ保健師と連携し支援を行う。	95.7%	・健診でむし歯があり、歯科医院に通院していない場合は、歯科専門職や必要に応じ保健師と連携し支援を行った。	・むし歯のない子どもが増加している一方で、少数だがむし歯が極端に多い子どもがいる。食習慣や咀嚼機能の問題も含め、栄養士等と連携し、支援する。生活習慣に問題を抱えてないか等、保健師等の専門職と連携して、適切な支援に繋げる。 ・むし歯があっても歯科医院に通院していない場合は、歯科専門職や必要に応じ保健師と連携し引き続き支援を行う。				
			3歳児健康診査で、甘い飲み物をほぼ毎日飲んでいる子ども	21%	22%	減らす	・1歳6か月児歯科健診時に甘い飲み物を毎日飲んでいる子どもに対し、歯科専門職が個別指導を行いむし歯リスクについて伝えることで、行動変容を促す。 ・健診事業だけではなく、子どもの集まる事業での周知啓発等検討する。	17.3%	・1歳6か月児歯科健診時に甘い飲み物を毎日飲んでいる場合、歯科衛生士が保護者にむし歯リスクについて指導を行った。 ・乳幼児歯科相談のアンケートで甘い飲み物の頻度が多い子どもに対し、歯科医師が適切な取り方についてアドバイスを行った。	・甘い飲み物をほぼ毎日飲んでいる子どもの割合は減少した。 ・保護者に正しい知識を習得してもらうため、1歳6か月児健診でむし歯リスクのある子どもの保護者に対し、歯科専門職が個別指導を行い、むし歯リスクについて伝えることで行動変容を促す。				
			3歳児健康診査で、かかりつけ歯科医を持っている子ども	35.4%	36%	増やす	・引き続き乳幼児健診や乳幼児歯科相談事業で周知啓発を行い、ぼけなび等活用した周知啓発も行う。 ・地域に出向き子どもの集まる広場等での健康教育の中で、かかりつけ歯科医の定着について周知を行う。	35.1%	・継続して乳幼児健診や乳幼児歯科相談事業等がかかりつけ歯科医に関する周知啓発を図った。 ・子育て広場での健康教育にて、かかりつけ歯科医を持つメリットについて周知した。	・かかりつけ歯科医を持っている子どもは微減した。 ・引き続き乳幼児健診事業等で周知啓発を行う。 ・市ホームページだけではなく、ぼけなび等の活用や他事業とからめた周知啓発についても検討する。				

大目標
3

歯とお口の健康づくりを推進します

評価の基準 ○:現状値より増えた △:現状維持 ×:現状値より減った

								主管課評価				策定・評価推進委員会		
番号	中目標	担当	指標	現状値	令和5年度 実績値	最終 目標値	令和6年度実施計画 【最終目標値達成のために 実施する事業(業務内容)】	令和6年度 実績値	実施内容 【目標達成のために実施した事業】	達成状況と課題	評価	評価と課題	評価	評価コメント
3	【学齢期・成人期】 子どもの歯肉 炎予防・成人の 歯周病予防に 努めます	健康課	中学1年生 でむし歯の ない子ども	77.5%	79.5%	増やす	学校や学校歯科医との連携をより密にとっていく。歯の大切さを伝えるために引き続き学校歯科医による講話や歯の磨き方の指導等を行う。養護教諭をはじめとした関係機関との連携をより強化する。	78.2%	・学校歯科医との連携により、生徒に対し、講話や歯の磨き方等の指導を行った。	・学校歯科健診結果では、中学 1 年生でのむし歯は微増した。 ・成長期の口腔内環境は将来の歯の健康に直結するため、引き続き、学校歯科医や養護教諭等と共に、生徒が正しい生活習慣を身に付けることが出来るようにサポートを行う。	△	【評価】 養護教諭と連携し、保健だよりやひのっ子きょういくに記事を掲載し、周知啓発できたことは評価できると考える。 【課題】 令和 7 年度より 20 歳・30 歳の若い世代も対象となり、受診率がさらに減少することが懸念される。受診率向上のため、若い世代への効果的な手法を他自治体を参考にするなど検討が必要である。	△	●大きな状況の変化は認められない。新しい取り組みを行っているようだが、成果に結びついていないのは残念である。20 歳・30 歳が対象になるとの事、社会人は学校のような集団的に伝える場がないため、中高生より更に難しい面を有している。文字離れも進んでおり、SNS の活用・動画化やイラスト化等も、新たな伝達手段として考えていく必要があると思う。 ●この頃から歯科受診は自身が行うことになる。「歯の維持をおろそかにする」とこうなる将来」や「くいしばる機会」はアスリートだけじゃない」など、自身のお口の健康に関心を持つような啓発をしていくのはどうか。 ●学校での指導等の実施内容は充実していると思う。若い世代に響くような具体策をいろいろとやってみてほしい。 ●子どもの口腔内についてはおおむね評価できる「お口の健康診査」の対象年齢のうち、特に若い世代はその必要性を感じ取ることができない。10 年後成人になっていく子ども達の歯科教育の重要性の検討が必要。 ●学校内での取り組みは順調。 ●養護教諭と連携し、保健だよりやひのっ子きょういくで周知啓発できたことは評価できる。 令和 7 年度より 20 歳・30 歳の若い世代が対象となり、受診率の減少が懸念されるため、若い世代への効果的な周知方法を検討する必要がある。 ●若い世代への啓発は難しいが、以前に比べると関心は高くなっていると考え。他の関係部署との連携も図って引き続きお願いしたい。
			中学1年生 で歯肉に異常 のない子ども	78.4%	86.3%	増やす	・関係課や養護教諭との連携を密にとり、保健だよりやひのっ子きょういく等を利用し情報発信を行う。情報発信の中でセルフケアの方法やかかりつけ歯科医での健診の重要性について周知し、歯肉炎予防を図る。	89.1%	・ひのっ子きょういく(教育広報)に歯肉炎予防の大切さについての記事を掲載した。 ・11 月 8 日(いい歯の日)に向け、養護教諭との連携のもと、保健だよりにより歯科衛生士が歯肉炎予防やむし歯予防のポイント等子どもの歯の健康を守るための内容を掲載した(小学校編・中学校編作成)	・学校歯科健診結果では、中学 1 年生の歯肉炎は減少した。思春期特有のホルモンバランスの変化もあり、歯肉炎が増えやすい環境がある。 ・学校歯科医や養護教諭との連携を強化し、かかりつけ歯科医での健診やクリーニングに結びつけられるような支援を継続する。				
			お口の健康診査の受診率	8.9%	6.2%	増やす	電話での受診勧奨や地域に出向いての啓発活動を行い、受診勧奨のポスターの掲示箇所を増やし、受診率向上を目指して取り組む。	5.8%	・デジタルサイネージを活用した周知啓発を行った。 ・関係機関やミニバスにポスターを掲示した。	・お口の健康診査の受診率は微減した。 ・令和 7 年度より、20 歳・30 歳の若い世代も対象となり、受診率がさらに低下する懸念がある。若い世代への周知啓発を図る策を検討する。				
			お口の健康診査受診者で、かかりつけ歯科医を持つ方	59.8%	66.6%	増やす	引き続きお口の健康診査時の健康教育や市ホームページ、広報ひのを通じて、かかりつけ歯科医を持つことのメリットを周知する。地域に出向いて、対面での健康教育の機会をより増やす。	64.9%	・お口の健康診査時の健康教育や市ホームページ、広報ひのでかかりつけ歯科医を持つことのメリットを周知した。	・率は下降気味で推移している。 ・かかりつけ歯科医を持ち定期健診を受診している方の増加が、受診率にどのように影響しているかを引き続き分析していく。				

大目標
3

歯とお口の健康づくりを推進します

評価の基準

○:現状値より増えた △:現状維持 ×:現状値より減った

								主管課評価				策定・評価推進委員会						
番号	中目標	担当	指標	現状値	令和5年度 実績値	最終 目標値	令和6年度実施計画 【最終目標値達成のために 実施する事業(業務内容)】	令和6年度 実績値	実施内容 【目標達成のために実施した事業】	達成状況と課題	評価	評価と課題	評価	評価コメント				
4	【高齢期】 口腔機能の維持向上を推進 します	健康課	お口の健康 診査の 受診率	中目標3にて評価														
			後期高齢 者歯科健 診受診率	9.6%	11.3%	増やす	・高齢者の口腔機能の維持・向上のため、口腔機能健診を開始する。 ・受診率向上のため、広報や SNS 等を活用した周知啓発を行う。 ・高齢者の通いの場で健康教育を行う際に、歯科健診の重要性や事業周知を行い受診率向上を図る。	9.6%	・関係機関と連携し、舌圧測定、オーラルディアドコネシス(タの発音回数を調査)を用いた口腔機能健診を開始した。 ・デジタルサイネージを活用した周知啓発を行った。 ・保健事業と介護予防の一体的実施事業の対象者にチラシを作成して受診を呼び掛けた。	・初年度は受診率が大幅に向上したが、令和 6 年度は下がり気味である。シルバー人材センターの会員の平均年齢が 75 歳のため、会誌等で呼びかけを図る。 ・高齢福祉課のフレ筋アツプ教室も対象年齢の参加率が高いので、歯科衛生士が出張し、健康教育を行う。 ・5 年間、毎年受診してもらうことで、自身の健口状況の推移を把握できるので、継続して受診いただけるように周知・啓発に取り組む。	○	【評価】 数値としては昨年度より減少したが、保健事業と介護予防の一体的実施事業の対象者にチラシを作成して受診を呼び掛けたことは評価できると考える。	○	●数値が下がってしまったことは残念であるが、新しい取り組みも色々検討されているようで、今後の高齢の市民への浸透に期待したい。むし歯・入れ歯など、不具合で歯医者にかかることが多い年代であり、治療に通院する機会を如何に活用するかがポイントではないか。歯科医との連携が大切だと思う。 ●行動力、体力、自由時間等が豊かな世代だと思うので、高齢層の横のつながり、所属グループなどに協力を求め、周知及び参加を進めるのは良いと思われる。 ●実績値は減少のよう。他事業にも足を運んだりと努力を感じる。 ●後期高齢者歯科健診受診率の低下は残念な結果になったが情報発信は評価できる。若い世代より受診する意味がある事、特に誤嚥性肺炎の予防になる舌圧測定についてもう少しアピールが必要。 ●順調に経過している。 ●数値としては昨年度より減少しており、他事業と連携する等、受診率向上のためにより一層の周知啓発活動と受診勧奨の充実が必要である。 ●チラシの配布等、健康課として努力していく姿勢は素晴らしい。フレイル予防にも、口腔機能の向上は重要なので、高齢福祉課等の関係部署とも連携して引き続きお願いしたい。				
			お口の健康 診査受 診者で、 かかりつ け歯科医 を持つ方	次指標に移行														
			後期高齢 者歯科健 康診査受 診者で、 かかりつ け歯科医 を持つ方	44.5%	87.1%	増やす	・受診者に対し、かかりつけ歯科医の重要性について健康教育を行う。75～79 歳の 5 年間に重点を置いて歯科専門職が教育することで、かかりつけ歯科医定着を図る。	85.4%	・受診者に歯科保健指導を行い、自身の口腔機能の状態を把握してもらい、お口の機能を維持することの大切さを理解してもらった。 ・後期高齢者の入り口である 75～79 歳をターゲットに健診を実施しているが、対象年齢以降もご自身で歯科医院を継続して受診してもらえるように周知を図った。	・口腔機能健診開始に伴い、対象者を 75～79 歳に変更したため、かかりつけ歯科医を持つ方が多い結果となった。 ・歯科医院で舌圧測定を行い、口腔機能維持の大切さを丁寧に説明することにより、かかりつけ歯科医の定着を促していく。								